



自民党

即戦力、本格始動。

I ♥ NISHINOMIYA

吉岡

政和

兵庫県議会議員の吉岡政和でございます。

議員は誰しも結果を求められているとはいえ、私は特に「**即戦力**」との皆様の期待を受けて兵庫県議会に送り出して頂いたわけです。その期待に背くことのないよう、政策勉強に地域活動に、日々励んでおります。

議会全体、また兵庫県議会自由民主党議員団の中では新人議員の私。それでも「**即戦力**」としての気概を大切に胸を張って必死に頑張っているところです。**市政と県政の違いを感じることもあります**が、「やはり**市政と県政は繋がっている**」と感じることもしばしば。市議会議員時代から実現しなかったのにできなかった、県レベルでの政策を進めていくぞという熱意があらためて強く沸き上がってきました。市議会議員の仲間たちとも連携し、県政での公約実現に全力を尽くして参ります。

2月25日の本会議では、さっそく一般質問に立たせて頂きました。政権政党の一員として議会で質問するという経験も、むしろ市議会議員時代に経験済みではありますが、県議会議員としてこの大役に臨むのはまた格別の緊張感があります。しかし先輩議員の皆様からは熱い掛け声で送り出して頂き、知事をはじめとする県の方々からは真摯にご答弁頂き、はじめての議会質問も充実感を以て終えることができました。今回の「がんばるレポート」では、この質問を中心にお伝えして参ります。



議会で質問の紹介の前に……医療問題の「おもしろい」を！

以前の紙面より

西宮市では、僕が議員になって以来ずっと、財政赤字が続く西宮市立中央病院の存廃が議論されてきました。

現在、市長の示した方針により、アサヒビール工場跡地の阪神国道駅の側、2.6haを55億円で購入し、県立西宮病院との統合病院の候補地とすることが決まっています。県との協議はこれからなのですが、西宮市民のみならずにとっては、関心のある問題ではないでしょうか。

一方、西宮市北部に目を向けると、そもそも病院が足りないことや、三次救急に対応できないことが大きな課題となっています。

救急に関する体制は、下記の3つに分類されています。
[初級救急=入院・手術を伴わない医療]
[二次救急=入院や手術を要する医療]
[三次救急=二次救急まででは対応できない、重い疾患や外傷に対する医療]

図④ 阪神南医療圏



現在、兵庫県が定める保健医療計画では、西宮市北部と西宮市南部に加えて、芦屋市や尼崎市を含むエリアを、阪神南圏域と設定し、方針を策定しています(図④)が、地理的な条件を考えると、西宮市北部は、宝塚市や神戸市と連携して医療計画を定めた方が、効果的であると考えられます。

西宮市北部の医療課題の解決は、西宮市南部の医療体制の充実にも繋がります。なるべくお金をかけずに仕組みを改善することで、新たな解決策を導き出すべきです。

☆宝塚市・神戸市と連携した方が効果的だと考えられます。

※今回のチラシに掲載された質問・答弁は吉岡政和とスタッフが要約したものです。全文は、議会サイトの動画をご参照ください!

医療

吉岡：本県の医療圏域設定の考え方として、地理的条件等の自然的条件及び日常生活の需要、交通事情等を考慮して入院に係る医療の単位として設定するとされており、平成25年の改定時には現行を維持するとされて現在に至っております。ところで阪神南圏域は、東西に東から尼崎市・西宮市・芦屋市と並んでおり、圏域内には六甲山系の丘陵地があり、その南北の生活環境に違いがあります。沿岸部には医療機関が多く、交通も便利ですが、圏域北部にあたる**西宮市北部には医療機関は少なく、多くの県民は神戸市北区・三田市・宝塚市など圏域外の医療機関を利用しています**。さる13日に、西宮市は新年度予算を発表しましたが、阪神北部4市町が共同運営する「**阪神北広域子ども急病センター**」に負担金の拠出をきめたとの新聞報道のとおり、**小児科の休日・夜間診療も不足**しております。

一方、阪神北圏域においては、三田市民は神戸市北区の医療施設を利用する方が少なくはなく、圏域外の医療施設に入院するなど流出が目立ち、非常に重大なことです。3次救急を担う**救急救命センターが圏域内にありません**。両圏域に見られるこうした事情は、地理的条件や交通事情の現状が、設定された圏域に合致していない事に原因があると考えます。もし**西宮市北部を阪神北圏域に編入したとして考えると、それにより、JR宝塚線によって北圏域内に交通面でつながりが生じます**。このつながったラインを軸に救急救命センター機能のある医療施設を設置することにより、北圏域全体の医療環境向上にも寄与出来ることとなるのではないのでしょうか。

質問の結果……

知事から、次の改定時に向けて検討を進めていく旨を答弁頂きました！ この政策については、北部出身者である私・吉岡政和に最も期待が掛けられている政策だと思っております。今回の議会の質問だけで終えることなく、現状の医療圏域設定がどういった弊害を生んでいるか、医療圏域見直しに向けた調査や計画策定はきちんと進んでいるかなどを定期的に議会に質問していきたいと考えております。ここだけは絶対に譲らないという心構えで取り組みます！

防災

吉岡: 昨年の台風第11号は、本県だけでなく全国各地に被害をもたらしました。本県では今後の自然災害に備え、社会基盤整備プログラムを改定され、平成26年度から35年度までの10年間の見通しを示されました。武庫川流域に関して確認したところ、平成21年3月に河川法に基づく河川整備基本方針が、平成23年8月には河川整備計画が策定されております。さらに県では、先進的な取組として総合治水条例を制定され、平成25年3月には条例に基づく阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進計画も策定されています。

また、西宮市内を流れる武庫川水系名塩川及び有馬川は、昨年の台風において大きな被害が出ました。これらの川は水害に関する対策が比較とられている支流ということで、河川整備計画には含まれていないのですが、**実際に被害が生じたということは昨今の気象変化による局地的な集中豪雨などに対する対策も考慮していく必要があります。**「武庫川水系河川整備計画」に位置付けられている事業とあわせてこれらの支川の整備に取り組むことは必然であると考えます。

↓ 質問の結果……

まず武庫川の河川整備計画は順調に進んでいるということ、河川数整備・橋の架け替えなど知事のほうからそれぞれ具体的に答弁頂きました。支川については、昨年の台風からの復旧を急ぎ、屈曲部などは護岸のかさ上げ、土砂の堆積監視などに努めていくとのことでした。以前もお伝えした通り「流域の人口と民間資産がなんと全国10位」の武庫川水系、その治水は経済的にも多大なメリットがある政策だという信念の下、今後も継続的な防災の取り組みを県に求めて参ります！

吉岡政和 プロフィール

- 昭和49年6月17日生まれ
- 西宮市立生瀬小学校卒業
- 西宮市立生瀬中学校卒業
- 西宮市立西宮高等学校卒業
- 近畿大学商経学部経営学科卒業
- 平成11年4月より中山正暉建設大臣(当時)の下で政治を学ぶ
- 平成19年4月、西宮市議選において4,041票を獲得し初当選(45名中6位)
- 平成19年 西宮市議会 総務常任委員会 副委員長
- 平成22年 西宮市議会 建設常任委員会 委員長
- 平成23年4月 西宮市議會議員選挙 2期目当選
- 平成27年1月 兵庫県議會議員選挙 1期目当選



即戦力、本格始動。

余談ですが……
身を切る改革、
成功中!?



42キロ痩せましたっ! 「スマート」な県政に貢献します!
ダイエット方法のヒミツを知りたい方はお気軽にお問い合わせください!

教育

吉岡: 平成24年当時私が理事長を務めていた西宮青年会議所では、市内在学の高校生を対象に、日本の国境線に関する調査を街頭で行いました。その結果を御紹介させていただきますと、調査に協力していただいた生徒は3,223名で、これは市内在学学生のおよそ30%です。**全ての国境線を記入できた正解者は57名、全体のわずか1.76%でした。多くの生徒が日本の国境線を理解していないという結果でした。**今もなお領土問題が原因

で戦争状態が続く国や地域が存在しており、我が国の平和や国際社会の平和を学習する上でも、領域教育を丁寧に学習することは重要であると考えます。

県は兵庫県北方領土教育者会議及び北方領土返還運動兵庫県推進会議を通じて返還運動に関わっています。さる2月8日に「北方領土の日」記念県民大会に参加しました。そこでは県内中学生の作文コンクールの表彰と、拓殖大学客員教授の講演が行われましたが、**兵庫県における北方領土返還運動が形骸化しているのではないかと**感じたところです。県として北方領土返還運動について、問題が風化しない為、また1日も早い返還に向けた真剣な取り組みをどのように展開されるのかお伺いします。また昨年から教育委員会が認めれば土曜授業が可能となりました。これらを活用して、例えば文科省も推薦する日本青年会議所が作成した領土・領海・領空などに関する領域学習教材を使用して土曜授業等を実施するなど、領域に関する教育の今後の取り組みについてお伺いします。

↓ 質問の結果……

領土問題については国の外交政策を下支えする国民世論が非常に重要であり、その形成において県の果たす役割は大きいという県の認識を答弁頂きました。教育委員会でも、質問中に取り上げた日本青年会議所作成の領土問題の教材には目を通してということ、今後の領土問題教育の進展に期待できそうです!

経済

吉岡: 今回の編成で柱に据えられたのは、ポスト阪神・淡路大震災20年の安全対策強化と、地域を元気にしていこうという「地域創生」です。**地域創生は昨年来、安倍政権が看板政策に掲げてきた「地方創生」の兵庫県版**です。兵庫へのUターン、Iターン促進施策として、企業誘致や起業の支援、さらには出会いや結婚のサポート対象者を首都圏まで広げるなど、様々なメニューが盛り込まれております。

これまでいろいろな地域活性化策を打ってきたはずですが、なぜこうした活性化策は、ことごとく失敗してきたのでしょうか。それは時代に合わなくなった昔の組織を温存したうえで、政策を実行しているからだと思います。わかりやすく言うと、穴のあいたバケツに水を注いでもバケツは満たされません。そのような古いバケツを修繕したとしても、また別の所に不具合が生じる事が予想され、その場しのぎの修繕になってしまい、すぐに新たな修繕が必要になってくるといった状況です。**今回の地域創生には古くなったバケツを思い切って新しいバケツに買い換える等、割り切った考え方も必要となります。私は地域創生の成功に必要な不可欠なものは「割り切り」と「発想の転換」にあると考えます。**今回の予算でも様々なミクロな事業が盛り込まれていますが、そのミクロな事業の効果が県全体の問題解決につながるかどうかをしっかりと検証する必要があります。問題の本質を見極める努力を惜しまずに取り組みます。

即戦力、本格始動。

吉岡 政和

平成27年にあなたの支払った
県税一万円はこの様に使われます。

教育費	2310円	農林水産費	380円
商工費	1430円	衛生費	320円
公債費	1470円	労働費	40円
民生費	1520円	災害復旧費	70円
総務費	1010円	雑会費	10円
土木費	760円	予備費	10円
警察費	670円		